

平成28年度産業建設委員会視察報告

産業建設委員会は10月18日から20日に北海道十勝地方の農業を中心に6箇所の視察研修をおこないました。

1. 総合球技場「アルウィン」の施設維持管理（松本市）

アルウィンでは、年間を通じての利用状況や芝の管理状況などの説明を受け、やまびこドームも併せて管理状況を聞くことができました。アルウィンの芝管理については、夏の管理が非常に難しいとのことで、視察当日は、松本山雅がJ1昇格を目指す中で大事な試合前ということで大規模な修繕の最中でした。



2. 農業の六次産業化とTPP対策（JA中札内村・中札内村役場）



中札内村のJA中札内の枝豆の生産と加工を一貫して行う事業（第45回日本農業対象受賞）について山本勝博組合長から説明・案内を受けました。JA中札内では、1983年に農家3人が、肥料や農薬が少なくて済み、地域の土壌に適していることから生産を開始し、現在は90名近い農家が生産している。年間の生産量は約4千トンで、残留農薬検査をクリアした農場から収穫期にはフランス製の専用巨大ハーベスターで24時間刈り取りを行うなど、調理、加工（冷凍）まで3時間で完了し鮮度を維持しているとのことでした。国の補助事業を活用した新設の加工施設では、新規採用された若い世代20人あまりが作業に従事していました。冷凍技術の活用で年間を通じて加工した枝豆を市場へ供給できる体制構築の結果、作付面積を増やしたいという農家の希望が強いそうで、現在のところ、農家の

後継者不足といった状況はごくわずかだと説明を受けました。

3. フードバレーとかち（帯広市）

帯広市役所において、十勝地方の農業生産品と加工品についてのブランド化を強化する取り組みなどについて学びました。酪農を中心とした十勝地方の品質の高い農業生産品に付加価値を付与し、ブランドを強化するために帯広市内外を問わず、大手乳業メーカーなどとの協力で「十勝」ブランドによる宣伝などについて説明を受けました。



4. 除雪の現状（池田町）

町内の除雪体制について、町では建設課長をトップとして、町職員さらに建設事業者を含め約 50 名体制で除雪を実施していました。役場職員自らが中心になって重機を運転し除雪を実施、さらに重機も町で所有し、事業者に委託する路線以外のほとんどを役場が直接除雪を実施するという点で、塩尻市をはじめ他市町村が建設事業者などへ委託している状況から考えると、非常に珍しい除雪体制でした。また、GPS を重機に搭載した除雪管理システムによって、情報の共有と効率化を進めている点は先進的な取り組みに感じました。

5. ワイン振興について（池田町）



1959 年にワイン事業を町として開始し、池田町の中学生であった、ドリームズ・カムトゥルーの吉田美和さんもブドウの苗を定植したそうです。冬季はマイナス 20 度近くになり、ブドウにとってそのままでは冬を越せないため、地面から 30 センチ程度ブドウの木を地面から埋めてしまい、厳冬から木を守る工夫によってブドウの木を守っ

ているそうで、厳しい環境と付き合いながらの栽培に、当市の環境は非常に恵まれていることを改めて感じました。工場内の視察中も多くの観光客が訪れており、十勝川温泉に来たアジア系の観光客が近年は増加し、インバウンドの恩恵を受けているとのことでした。周辺の観光客を上手に取り込めている印象を受けると同時に、ワイン城の中のレストランでは食事ができ、十勝平野を一望できる素晴らしい景色と夕日が望めました。良いワインをつくるだけではなく、ワイン+ α を当市でも考えていくべきだと強く感じました。



6. 新千歳空港雪冷熱供給システム

平成 21 年度より事業化され、約 70,000t もの雪を右写真の雪捨て場に貯蔵し新千歳空港の冷房に熱源を供給しているとのことでした。冷水循環方式空港で除雪した雪を長期間保存し、新千歳空港ターミナルビルの冷房に利用し、さらに空港で使用した防除雪氷剤等の河川への流出を防ぐことも目的としていました。セントラルリーシングシステム（株）が管理をおこない、塩尻市でも規模こそ小さいが冬に雪捨て場に捨てられる雪の活用ができないか検討すべきかもしれません。



まとめ

今回視察をした十勝地方の大規模農業と塩尻周辺の農業形態を簡単に比較することはできませんが、国の補助金の活用を含め本市でも農業の可能性についてさらに研究すべきではないだろうかと感じました。また、塩尻市内の両 JA へ幹部のみなさんにも視察報告をしました。